

錦江に生きる

さんじゆうににん目

わたなべ ひろゆき
渡辺 寛之さん

(西大原自治会)



手際よく仕込み作業をする寛之さん。



田代地区で飲食店を夫婦で営む渡辺寛之さんのお店を尋ねると、奥さんのリエさんと出迎えてくれた。夫婦二人三脚で店を切り盛りするおしどり夫婦だ。

寛之さんは、静岡県で飲食店を経営する親戚の誘いもあつて高校を卒業後、料理の修業に出た。独立志向があつて修行に出たのか尋ねると「料理人になるかも決めてなかつたんです。実は高校は工業高校を出てるので…」と笑つた。続けて、「静岡は知り合いもいないし、料理の知識は皆無だったのでも、最初の頃はしんどかつたですね。」と懐かしそうに話した。しかし、努力家の寛之さんは、料理の腕を磨き修業先の店が支店を出すことになつた時、本店の料理を任せられるまでになつた。そして、7年修行の後、満を持して独立。独立して、どうでした？と質問すると「鹿屋に店を構えたのですが、不景気のおりなどを受けてなかなか経営は上向きませんでした。でも、一番の売りである『みそかつ』には絶対の自信がありました。」と胸を張つた。それでも、何度か店を畳もうと弱気になつたことも…。「常連さんや仲間が、辞めないで、まだ、この料理を食べたい。と励ましてくれたので今の自分がいるんですね。」と、嬉しそうに目を細めた。

このコーナーでは、町内でこれから根を張つていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。
第32回目は、西大原自治会の渡辺寛之さんです。

そして鹿屋でも知名度を上げていき、経営も軌道に乗つていった。しかし、寛之さんのゴールはそこではなかつた。三年後、念願だった地元・田代に店を出し現在に至るのだ。今後の目標を尋ねると、「店を大きくしたい気持ちはありますが、今のお客さんに育ててもらつてるので、今のお客さんを大切にしたい気持ちの方が強いですね。また、地元あつての私ですから地域活動などにも積極的に参加したい。」と、地域行事などにも頑張つている寛之さんらしい目標だつた。

寛之さんの趣味は、体を動かすこと。現在は、フットサルと、地元・大原のソフトボールチームに所属している。また、サッカーも好きだが、もっぱら観戦がメインだとか…。

最後に一言お願いすると、「私の店だけとか、花瀬公園だけとか、ピンポイントで人が来るのではなく、錦江町全体に人が来る町になると素晴らしいですね。その為に自分たちも頑張っていきたい。若者もまだまだ元気がないですね。自分たち若者が中心となつて頑張る、活気ある錦江町を創っていきましよう。」と力強く話した。

寛之さんは、芯の通つた、熱い気持ちを持った青年だつた。

編集後記

●新年明けましておめでとうございます。

今年一年が、皆さまにとって素晴らしい一年になりますように。そして、錦江町としても素晴らしい一年になりますように。

●先日、ある方とソバについて話しました。その方が「良いソバを打てたら、私が有名な店のそばつゆのレシピを教えるよ。でも、量が「ずん胴」用なんだよね。家で食べるには量が多すぎるんだよね。」私「そのレシピ見ながら少ない量の分量で作るんですか？」その方「いや、家で作る時の分量は目見当り店の味にはならないけどね。」私「・・・」ツシユの意味無さじやん！

●「気になる一枚」の答え。これは、田代地区の国道448号線沿いにある交通安全を祈願したお地藏さんです。このお地藏さんが着けている帽子と前掛けは10年以上前から毎年替えています。実はいつ頃から誰が行っているのかわかりません。きつと心やさしい方が、お地藏さんが冬の寒さを少しでもしのげるように毎年心を込めて編んでくれているのです。